

視覚障害者誘導用ブロックの維持管理等に関する調査
— 主要施設間を結ぶ経路を中心として —

事例集

総務省関東管区行政評価局

平成 30 年 4 月

目次

1. 国 道

事例の分類①	横断歩道接続部、立体横断施設(歩道橋)の昇降口、バス停留所の乗降口 などの必要な箇所に点字ブロックが敷設されていない……………	P1
事例の分類②	管理者が異なる歩道の点字ブロックが接続していない……………	P2
事例の分類③	点字ブロックの誘導方向や敷設方法が誤っている……………	P3
事例の分類④	点字ブロック上又は近接して障害物がある……………	P4
事例の分類⑤	点字ブロックがマンホール等で途切れている……………	P5
事例の分類⑥	形状、材質、大きさ等が異なる点字ブロックが接続している……………	P6
事例の分類⑦	点字ブロックが破損、磨耗等している……………	P7
事例の分類⑧	点字ブロックの色が周囲の路面と同系色となっている……………	P8
事例の分類⑨	JIS規格以外の点字ブロックが敷設されている……………	P9

2. 空 港

事例の分類①	エスカレーターの昇降口など、必要な箇所に警告ブロックが敷設されていない	P10
事例の分類②	自動扉手前に本来警告ブロックを敷設すべきところ、誘導ブロックが敷設され ている、階段やエスカレーター手前に敷設された警告ブロックの奥行きが60セ ンチメートルに満たないなど、敷設方法等が誤っている.....	P11
事例の分類③	点字ブロックがビルのエキスパンションジョイント等で途切れている.....	P12
事例の分類④	形状、材質、大きさ等の異なる点字ブロックが接続している.....	P13
事例の分類⑤	点字ブロックが破損、磨耗等している.....	P14
事例の分類⑥	点字ブロックの色が周囲の路面と同系色となっている.....	P15
事例の分類⑦	JIS規格以外の点字ブロックが敷設されている.....	P16
事例の分類⑧	その他.....	P17

1. 国道

1. 国道

事例の分類①

横断歩道接続部、立体横断施設(歩道橋)の昇降口、バス停留所の乗降口などの必要な箇所に点字ブロックが敷設されていない(73か所)

事例1

概要	横断歩道手前に警告ブロックが敷設されていない
----	------------------------



事例2

概要	バス停留所の乗降口に警告ブロックが敷設されていない
----	---------------------------



1.国道

事例の分類②

管理者が異なる歩道の点字ブロックが接続していない(2か所)

事例3



1.国道

事例の分類③

点字ブロックの誘導方向や敷設方法が誤っている(13か所)

事例4



1.国道

事例の分類④

点字ブロック上又は近接して障害物がある(10か所)

事例5



事例6

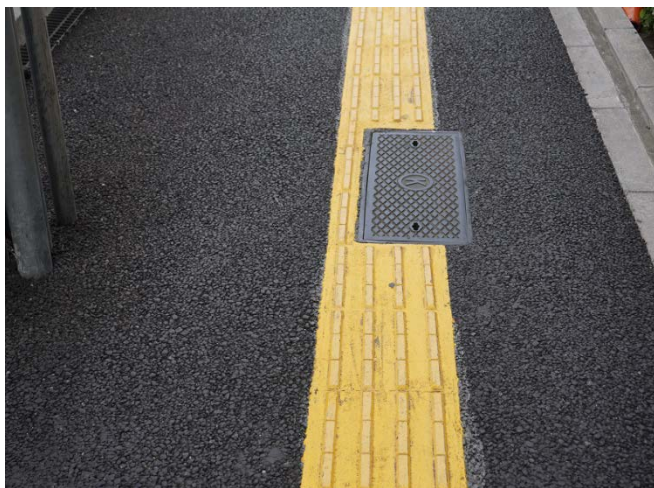


1.国道

事例の分類⑤

点字ブロックがマンホール等で途切れている(45か所)

事例7



事例8



1.国道

事例の分類⑥

形状、材質、大きさ等が異なる点字ブロックが接続している(3か所)

事例9



事例10

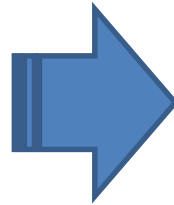


1.国道

事例の分類⑦

点字ブロックが破損、磨耗等している(25か所)

事例11



当局の歩行調査後、改修された(上写真)

1. 国道

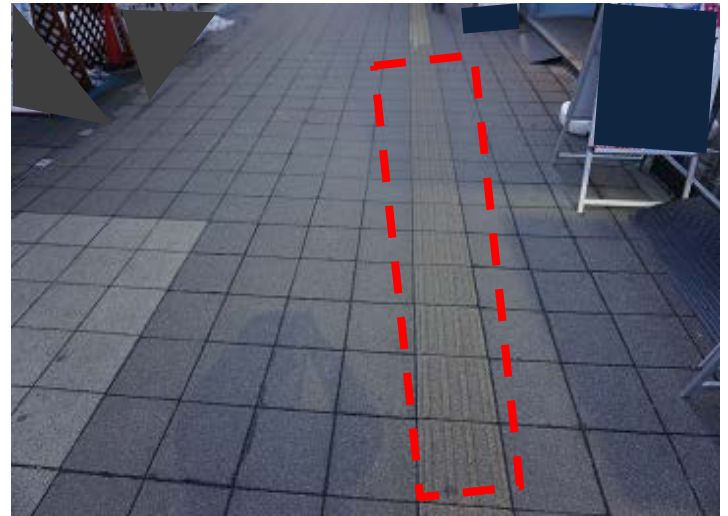
事例の分類⑧

点字ブロックの色が周囲の路面と同系色となっている(11か所)

事例12



事例13

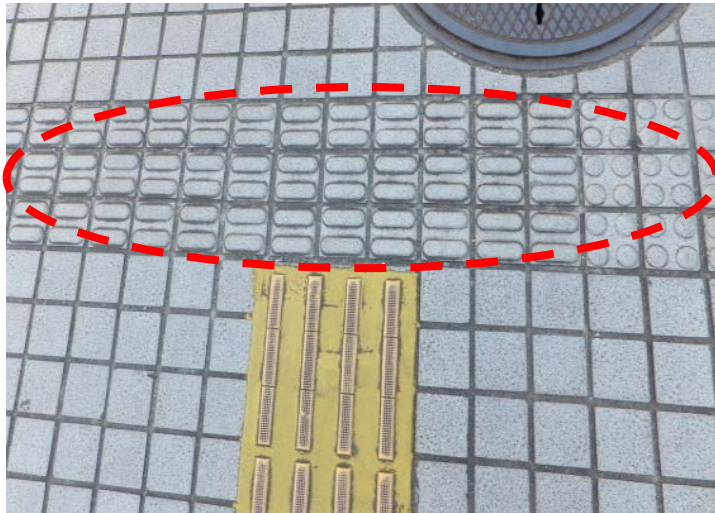


1.国道

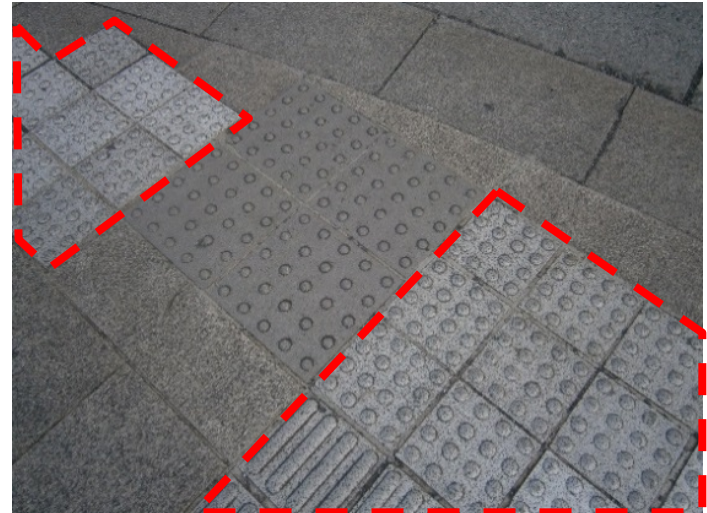
事例の分類⑨

JIS規格以外の点字ブロックが敷設されている(7か所)

事例14



事例15



点状突起の数が16の点字ブロックは、JIS規格外

(注) 道路の移動等円滑化整備ガイドラインによると、JIS規格の誘導ブロックの線状突起の長さは270mm以上、警告ブロックの点状突起の数は25以上と記載されている。

2. 空港

2. 空港

事例の分類①

エスカレーターの昇降口など、必要な箇所に警告ブロックが敷設されていない(2か所)

事例1

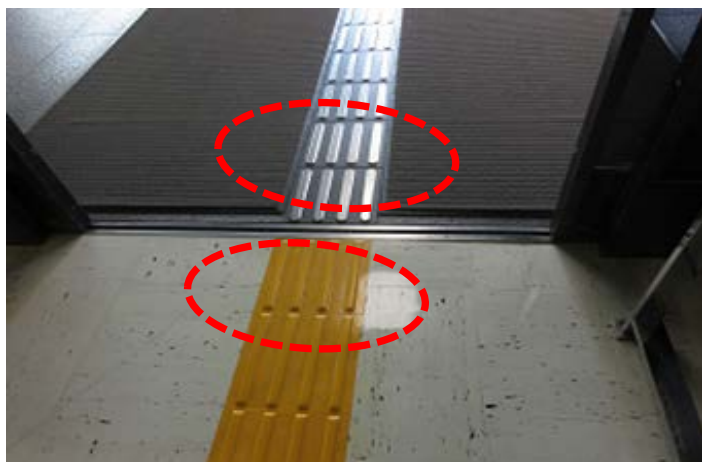


2. 空港

事例の分類②

自動扉手前に本来警告ブロックを敷設すべきところ、誘導ブロックが敷設されている、階段やエスカレーター手前に敷設された警告ブロックの奥行きが60センチメートルに満たないなど、敷設方法等が誤っている(20か所)

事例2



事例3



2.空港

事例の分類③

点字ブロックがビルのエキスパンションジョイント等で途切れている(4か所)

事例4



(注)エキスパンションジョイントとは、地震や温度変化による伸縮などの様々な外力を吸収するために設けられ、損壊を最小限に抑える機能を持つ建築用材である。

2. 空港

事例の分類④

形状、材質、大きさ等の異なる点字ブロックが接続している(11か所)

事例5



事例6

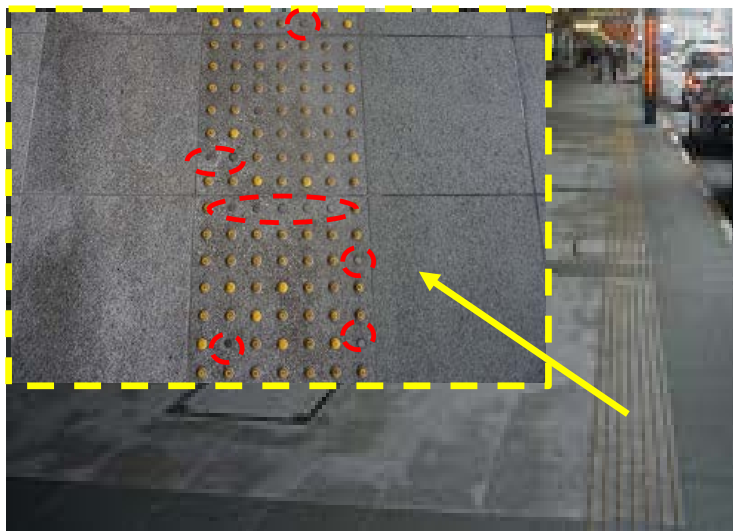


2. 空港

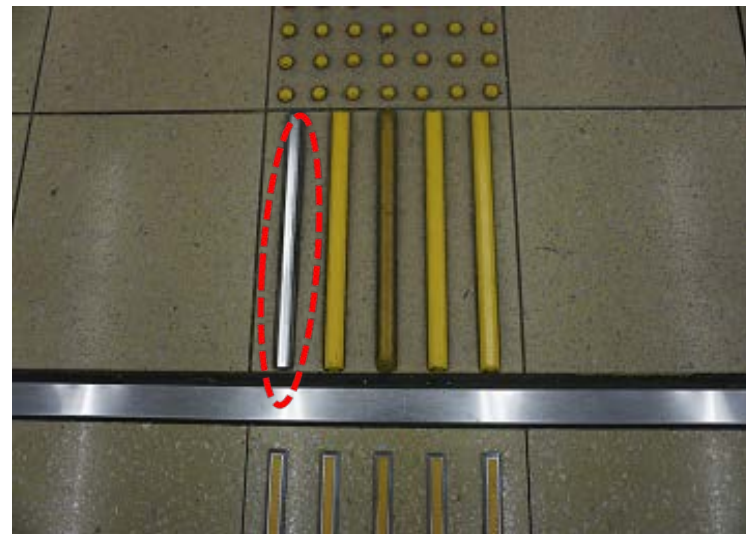
事例の分類⑤

点字ブロックが破損、磨耗等している(6か所)

事例7



事例8



2. 空港

事例の分類⑥

点字ブロックの色が周囲の路面と同系色となっている(1か所)

事例9

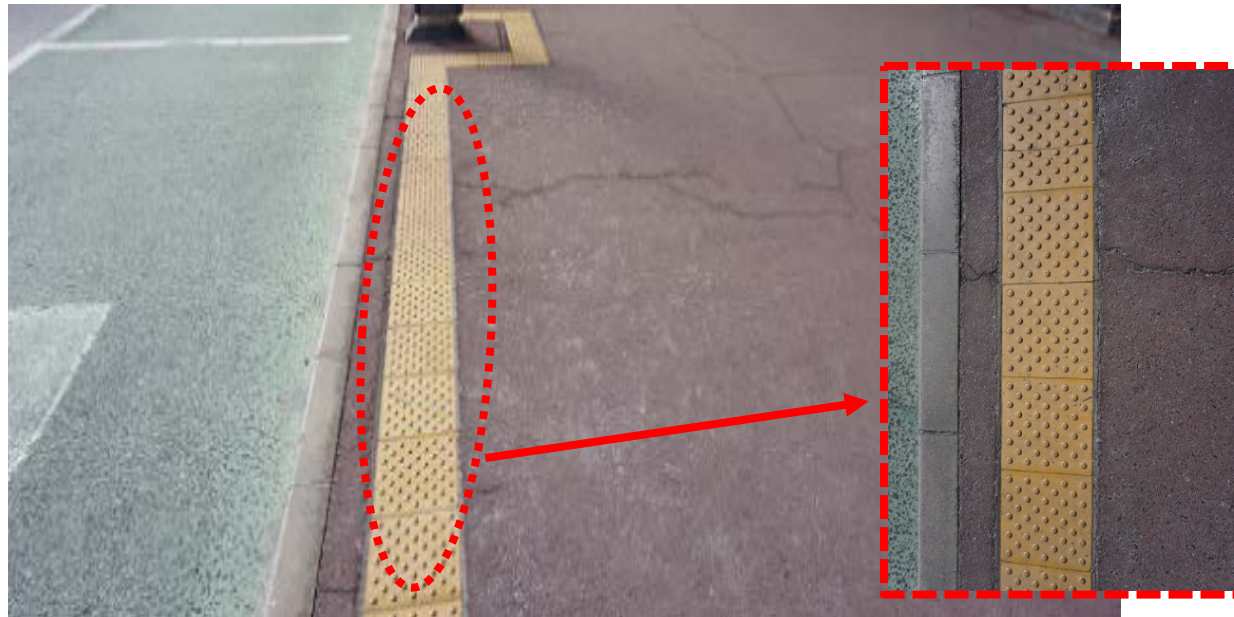


2.空港

事例の分類⑦

JIS規格以外の点字ブロックが敷設されている(1か所)

事例10



(注) 公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドラインによると、JIS規格の警告ブロックは点状突起の間隔が50mm以上必要と記載されている。

2. 空港

事例の分類⑧ その他(4か所)

事例11

エスカレーター手前に設置されたカート進入防止用ポールの手前に警告ブロックが敷設されていない



2. 空港

事例の分類⑧(その2)

事例12

トイレ個室内の呼出ボタンに点字表示がない

